

# まえがき

## —EASTICA 第10回総会及びセミナーについて

国立公文書館では、2011年（平成23）11月15日（火）から18日（金）まで、国際公文書館会議東アジア地域支部（East Asian Regional Branch of the International Council on Archives, EASTICA）との共催により、グランドアーク半蔵門（東京都千代田区隼町1-1）を会場として、EASTICA 第10回総会及びセミナーを開催しました。

EASTICA の会合は、これまで1997年と2007年にも東京で開かれており、3度目の日本開催となりました。会合には、海外（中国、韓国、モンゴル、オーストラリア、シンガポール）から72名、日本国内から80名、合計152名の参加がありました。国内外から多数の皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。

会合はまず、11月15日午後の理事会から始まりました。議案に沿って、出版物の刊行、新ウェブサイトの開発状況、財政報告、次回会合開催地、今後の新たな運営体制、理事会メンバーとしてA会員（国・地域代表）のみならず、専門職団体等が属するB会員からも理事を1名選出してはどうかという会計官からの提案等について討議しました。B会員からの理事会参加については、会員国・地域のABC順に理事を出すことになり、まず中国のB会員である中国档案学会から1名加わることになりました。

16日の開会式では、当館の高山館長と中国国家档案局の Yang Jibo 副局長が開会の挨拶を行いました。また、公文書管理を担当していた蓮舫内閣府特命担当大臣（当時）からメッセージが寄せられ、武川光夫内閣府大臣官房審議官（当時）が代読しました。引き続き開催された第10回総会では、新役員の選出が行われ、2011～2015年の運営体制

が下記のように決まり、EASTICA 議長のポストが当館高山館長から、韓国国家記録院の Song 院長へと引き継がれました。

議長：Song Gwi-geun（韓国国家記録院長）

副議長：Yang Dongquan（中国国家档案局長）

事務局長：Simon F.K. Chu（香港）

会計官：Lee Sangmin（韓国）

理事：高山 正也（日本国立公文書館長）

Ulziibaatar Demberel

（モンゴル国立公文書館長）

Lau Fong（マカオ歴史档案館館長代理）

2012年の理事会及びセミナーの開催地はモンゴル・ウランバートル（7月下旬開催予定）に、2013年の第11回総会及びセミナーの開催地は中国（開催時期・都市未定）に決定しました。総会ではこのほか、新規会員（韓国レコードマネージャー・アーキビスト協会、大連市档案館）の承認、香港大学と共催の既卒者向けアーカイブズ学講座の2012年度開講（継続）、国際公文書館会議（International Council on Archives, ICA）の大会の2016年韓国開催への支援などを決定・確認し、最後に Chu 事務局長から総会決議が提案されました。決議には、EASTICA がアーカイブズ機関における専門的技術の維持、アーカイブズに関する知識・文化の普及促進及び新しい科学技術、変化する経済環境や自然災害がもたらす諸問題の克服に引き続き取り組むこと、UNESCO が ICA の創案による「世界アーカイブズ宣言」を承認・採択したことへの支持等も盛り込まれました。

16日の午後と17日の午前中に開催されたセミナーのテーマは、「今日のアーカイブズ：デジタ

ル時代の法制、アクセス、保存 (Archives Today : Legislation, Access, and Preservation in Digital Age)」で、3つのセッションから構成され、活発な意見交換が行われました。第1セッションでは、基調講演者としてオーストラリア国立公文書館政策戦略計画部長のバーバラ・バース氏、東京大学大学院情報学環の馬場章教授、東京大学大学院法学政治学研究科の宇賀克也教授をお招きし、それぞれ、オーストラリアにおける「開かれた」政府改革、知識創造に向けたデジタルアーカイブ、日本における公文書管理法の制定と今後の課題をテーマにご講演いただきました。また、2012年8月20日～24日にオーストラリアのブリスベンで開催される予定のICA大会について、ICAの大会担当事務次長を務めるマーガレット・ケンナ氏がプレゼンテーションを行いました。第2セッションでは、日本、中国、韓国、モンゴル、香港、マカオの各代表により、国・地域別報告が行われ、政府の電子文書管理の法的枠組みや、電子文書管理システム、長期保存媒体の選択等についての最新の状況が報告されました。これらの基調講演と国・地域別報告の日本語原稿は、全て本号に収録しています。第3セッションでは、今年設立10周年を迎えるアジア歴史資料センターによる講演と発表がありました。17日の午後には、参加者は、新しく駒込に開館した東洋文庫ミュージアムと両国の江戸東京博物館を訪問し、東アジアにゆかり

のある貴重な資料等の展示を視察しました。翌18日には国立公文書館の施設見学も行われました。

当館では、2009年9月に中国の青島で開催されたEASTICA第9回総会で、2011年の第10回総会を日本で開催することが決まって以降、開催に向けて準備を進めてきました。2011年3月11日に東日本大震災が起これ、その後多くの国際会議が延期や中止を余儀なくされたことを聞くに及び、11月に予定どおりEASTICAを開催できるかどうか危惧した時期もありました。今回、70名を超える海外からの参加者があったことは、EASTICAの活動を通じて東アジアのアーカイブズ関係者の間に育まれた連携の強さを再確認することになりました。海外の参加者からは、東日本大震災の被害へのお見舞いや復興に向けた励ましの言葉を数多くいただきました。国立公文書館では、今後ともEASTICAの会員として、東アジアのアーカイブズの連携強化に努めてまいります。EASTICAへの加盟には、簡単な手続きと会費の支払いが必要です。もし、読者の中でEASTICAの活動に興味を持たれた方がおられましたら、当館国際担当(電話03-3214-0641)までお問い合わせ下さい。

最後に、快くご講演をお引き受けいただいた講師の先生方、ご協力をいただいた関係機関をはじめ、本会合の開催にご尽力いただいた全ての皆様に、深く御礼申し上げます。